

## (参考情報)

事項	りんご黄色新品種「もりのかがやき」の特性		
ねらい	(独) 農研機構果樹研究所で育成された「もりのかがやき」は、県内外の生産者や関係団体らの関心が高く、県内でも導入が進んでいる。大玉で食味が良く、中生の「トキ」と晩生の「星の金貨」・「シナノゴールド」の間に収穫できる黄色品種で、特性が明らかになったので情報を提供する。		
内容	<p>1 来歴</p> <p>昭和56年に「つがる」に「ガラ」を交配し、平成14年から「リンゴ盛岡63号」として系統適応性検定試験が行われた。平成23年3月18日に品種名「もりのかがやき」で品種登録された。平成22年秋より各県で苗木が販売されている。</p> <p>2 開花時期と交雑和合性</p> <p>(1) 開花日及び満開日は、「ふじ」とほぼ同時期である。</p> <p>(2) S遺伝子型は<math>S_5S_7</math>で、「さんさ」とは交雑不和合性であるが、主力品種の「ふじ」「玉林」「つがる」「ジョナゴールド」等とは和合性と考えられる。</p> <p>3 収穫時期と果実品質、貯蔵性</p> <p>(1) 収穫適期は10月中下旬で、「トキ」より10日程度遅く、「星の金貨」より10日程度早い。</p> <p>(2) 後期落果はほとんどなく、熟度の揃いは比較的良いが、5～7日の間隔で2回に分けてすぐりもぎを行うと、果皮色や食味の揃いが良い。</p> <p>(3) 果実は円筒形で果皮色は黄色、つるさびが発生し、熟期に達すると油あがりがある。樹勢の強い樹では果形が乱れる傾向がある。</p> <p>(4) 果肉は硬く、糖度は14%程度、酸度は0.3g/100ml弱で、甘味で果汁が多く、芳香があり、食味は良好である。蜜は入らない。</p> <p>(5) 玉伸びは良く、「ふじ」より大玉傾向であるが、平均果重400g程度の樹では、つる割れ果が発生し、年によって尻割れ果(がくあ部裂果)の発生が見られる。</p> <p>(6) 心かび果の発生はほとんどない。</p> <p>(7) 貯蔵は普通冷蔵で1月末まで可能である。</p> <p>4 その他の特性</p> <p>(1) 樹姿は開帳性で、樹勢は中程度、早成り傾向で初期収量が高く、豊産性である。</p> <p>(2) 斑点落葉病には「つがる」並に強く、黒星病に罹病性であるが、通常の薬剤散布で防除できる。</p>		
期待される効果	「もりのかがやき」の導入を検討、または試作を開始している生産者の参考になる。		
利用上の注意事項	<p>1 暖地では果肉褐変が報告されており、高温障害と考えられている。</p> <p>2 園地によっては、つるさび、つる割れ、尻割れ果が多発する可能性がある。</p>		
担当部署 (連絡先)	りんご研究所 品種開発部 (0172-52-2331)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成18～22年度寒冷地果樹系統適応性・特性検定試験成績検討会資料 平成21～22年度試験研究成績概要集(りんご研究所)		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 生育ステージ (りんご研究所藤崎圃場)

品 種 名	発 芽 月.日	開 花 月.日	満 開 月.日
もりのかがやき	4.10	5.12	5.17
つ が る	4.11	5.11	5.16
ふ じ	4.11	5.12	5.16

注) H21年を除くH17~23年、5か年の平均値。

表2 「もりのかがやき」の果実品質 (りんご研究所藤崎圃場)

産年	収穫日 (収穫始め)	1果重 (g)	硬 度 (ポンド)	糖 度 (%)	酸 度 (g/100ml)	ヨード 反 応	食味 判定
H18	10.17	461	14.9	14.6	0.27	3.8	良
H19	10.9	431	15.3	14.4	0.29	3.1	良
H20	10.15	444	15.9	13.9	0.28	3.2	ヤ良
H21	10.7	384	13.7	14.7	0.29	2.9	ヤ良
H22	10.13	401	15.2	14.1	0.30	2.8	良
H23	10.18	410	15.3	13.4	0.29	2.3	ヤ良
平均	10.14	424	15.1	14.2	0.29	3.0	

表3 「もりのかがやき」の果実障害発生状況 (りんご研究所H22年産)

供試樹	収穫日	調査 果数	平均果重 (g)	つるさび発生果率 (%)			つる割れ 発生果率 (%)	斑点性障害 発生果率 (%)
				小	中	大		
1・2	10.12	50	298	26.5	42.9	26.5	0.0	0.0
	10.19	86	287	50.0	36.4	11.6	0.0	0.0
3	10.13	55	398	80.0	14.5	1.8	7.3	0.0
	10.20	95	381	71.6	18.9	6.3	15.8	1.1
4	10.13	30	380	70.0	26.7	0.0	16.7	0.0
	10.20	80	404	65.4	23.1	7.7	38.5	9.0
5	10.13	55	371	81.8	5.5	5.5	23.6	0.0
	10.20	26	392	80.1	15.4	3.8	15.5	3.4

注) 供試樹は9年生のM.26EMLA台樹で、1~2は黒石ほ場、供試樹3~5は藤崎ほ場で栽培。  
供試樹1と2は、2樹の全収穫果を合わせて調査した。

表4 「もりのかがやき」の果実障害発生状況 (りんご研究所H23年産)

供試樹	調査 果数	平均果重 (g)	つるさび発生果率 (%)			つる割れ 発生果率 (%)	尻割れ 発生果率 (%)
			小	中	大		
1	157	310	72.0	8.9	1.9	0.6	0.0
2	149	319	56.4	10.7	10.7	0.7	0.0
3	177	398	65.5	7.9	6.8	10.7	11.3
4	179	388	57.5	9.5	7.3	6.1	10.6
5	193	403	68.9	7.3	7.3	11.9	23.8
6	234	403	87.6	3.4	2.6	5.1	9.4

注) 供試樹1~2は黒石圃場、3~6は藤崎圃場で栽培、10月18日収穫。  
供試樹1~5は10年生のM.26EMLA台苗木、6は高接ぎ樹。

表5 「もりのかがやき」の貯蔵性 (りんご研究所藤崎圃場)

産年	収穫日	調査日	1果重 (g)	硬 度 (ポンド)	糖 度 (%)	酸 度 (g/100ml)	評 定
H18	10.17	2.15	459	13.2	15.0	0.20	×
H19	10.9	1.30	408	14.9	14.6	0.17	○
H20	10.15	1.14	435	13.9	14.9	0.21	○
		2.25	379	12.2	14.8	0.26	×
H21	10.14	1.26	365	13.1	15.1	0.20	○
		1.12	376	14.0	15.0	0.22	○
H22	10.13	(CA貯蔵5.10)	384	13.2	14.4	0.24	×

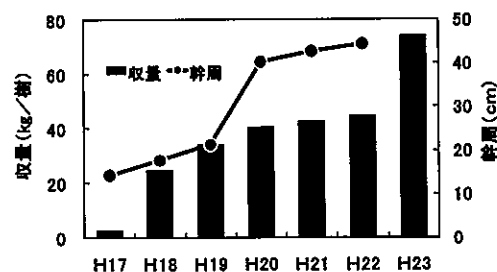


図1 「もりのかがやき」の収量性  
供試樹はH17年で4年生(接木4年目)のM.26台苗木で、  
栽植距離は5×3m。収量と幹周は3樹の平均値である。